

育成だより

第111号

【発行】 大刀洗町青少年育成町民会議 TEL 77-2670 FAX 77-2760

【編集】 大刀洗町青少年育成町民会議広報委員会

平成30年度 大刀洗町青少年育成町民会議の取組み

主な取組みは4つです。

少年の主張大会開催 (敬称略)

日時：平成30年11月10日(土)

発表者：大刀洗小学校 山崎 路禾・江崎 愛来
 菊池小学校 酒井 隆太・釜谷 葵
 大堰小学校 小坪 莉旺・平田 綾子
 本郷小学校 安達 桜大・中尾 風海
 大刀洗中学校 1年 山路あげは
 2年 床島 健斗
 3年 河村花菜子

【(2)～(11)ページに発表順全文掲載】



大刀洗町食育講演会

(大刀洗町食育推進協議会との共催)

日時：平成30年8月26日(日)

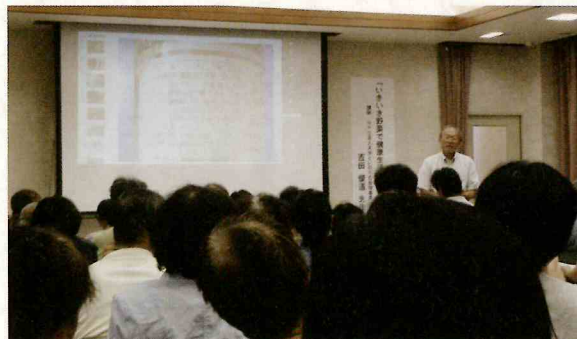
講師：ぬくもりの館AB会議室

吉田 俊道 氏 (NPO法人大地といのちの会理事長)

演題：「食べていきいき！

食改善の健康講座」

【(14)ページに内容を掲載】



「家庭の日」行事共催

「まなびィ講座」とのコラボレーション企画

第1回 「親子で考える 防犯対策！」

平成30年6月3日(日)

第2回 「不思議な漢字洞窟からの脱出」

平成30年7月21日(土)

第3回 「サイエンスショー&科学工作」

平成30年9月15日(土)

第4回 「海底神殿からの脱出」

平成30年11月25日(日)

【(15)～(16)ページに関連記事掲載】



「育成だより」第111号発行

(広報委員会にて編集して年1回)

少年の主張大会

「私からのメッセージ」



ゲームに頼らない 遊びの工夫

大刀洗小学校
6年 山崎 路禾

みなさんは、一日にどのくらいの時間をゲームやスマホに使っていますか。ゲームは、一度やり始めると、わくわくして、いつの間にか時間がどんどん過ぎていってしまいます。

ほくもゲームに夢中になりすぎて、ついつい宿題や家の仕事を後回しにして、しかられた経験があります。それほど夢中にさせてくれるゲームは、ちよつといやなことがあっても、すぐに楽しい気持ちにさせてくれます。しかし、ゲームは、よいことばかりでしょうか。

ほくの家では、ゲームばかりではなく、いろいろな遊びをしています。

例えば、みなさんもよく知っている「しりと」をアレンジした遊びです。用意するものは、このような、ひらがな五十音表と二色のマーカーです。このしりとりは、二チームによるチーム戦です。赤チームが「おにぎり」と言ったとします。この場合は、「おにぎり」の最後の文

字である「り」のところに、自分のチームの色をぬります。「り」は、もう出ましたので、「り」が最後にくる言葉は使えません。しりとりが進むと、このようになります。残っている平仮名が終わりにくる言葉を言えなくなったチームが負けです。ゲームの終ばんにくると、頭をフル回転させないと言葉を思いつくことはできません。

ほくの家でこのような遊びをしている理由は二つあります。

一つ目の理由は、自分で考えたことで生活を楽しくしていく力をつけるためです。ほくの父は、よくこんなことを言います。「昔はゲームなんてものはなくて、自分で遊びを考えついて遊んでいた。」「自分で考えて楽しむ力をつけなさい。」「と。ほくたちは、「何もなければつまらない」と思ったり、「何もすることがない」と言ったりしてしまいがちですが、自分たちで遊びを考えることができれば、「何もない」を「これがある」に変えて生活を楽しくすることができま

す。

二つ目の理由は、コミュニケーションをとるのが上手になるということです。先ほど紹介した遊びでは、「どこをそろえる」とか、「最後に『ら』がくる言葉はないかなあ」などと話し合うことが欠かせません。つまり、遊びながらコミュニケーションの取り方を身につけていくことにつながるのです。

もちろん、インターネットでも、コミュニケーションをとることはできます。しかし、と

ても難しいと感じた経験があります。それは、メールのやりとりでの誤解です。ほくはタブレットで友達とメールをしています。ある日、タブレットが使えなくなるので、友達に「しばらくメールせんで。」と送りました。すると、相手の友達は、ほくがおこっているように感じてしまったのです。ほくが伝えたかったことを正しくとらえてくれませんでした。その後、きちんと話をして誤解はとけましたが、表情や声が見聞きできないことの不便さを感じた体験です。やはり、友達と仲よく遊ぶためには、面と向かって話したり相手のことを考えたりすることが大切だと思います。

ゲームやインターネットが、すべて悪いというわけではありません。インターネットは、使いこなせば、とても便利な道具です。今の生活はもちろん、今後ますます欠かせないものになつていくことでしょう。ほくたちが、それらを正しく使いこなすためには、相手のことを考えてコミュニケーションをとることが大切です。そのためにも、みなさん、ここで一度自分の遊び方を見直してみませんか。ゲームやインターネットの時間を減らして、直接、考えや意見を伝え合う遊びをしてみませんか。たくさんの人と関われる遊びを工夫し、自分の力で楽しい生活をつくっていきましょ。



友情の大切さ

菊池小学校
6年 酒井 隆太

みなさんは、友情について考えたことはありますか。もし、いつも遊んでいる友達との友情がこわれてしまい、友達がいなくなってしまうとしたら、どれだけ悲しいと思いますか。

友情とはなんでしょう。僕の中で理想の友情とは、「ドラえもん」とのび太君のような関係だと思えます。お互いケンカもするけれど、いつも相手を思いやっています。そんな素晴らしい友情をはぐくんできていくために、僕は次の三つのことを大切にしていかなければならないと思います。

一つは、思いやりです。友達に対して悪口を言ったり、傷つけることをしたりしないようにすることが友情の第一歩だと思います。僕も五年生のころ、友達とケンカしたときに相手を傷つけてしまう言葉を言ったことがあります。ついつい言ってしまった言葉でしたが、その友達にとっては心に残る傷になったと思います。自分も言った後に、とても後悔したのを今でも覚えていています。

四年生のころ、友達から「図工の発想がすごいね。」という声掛けをしてもらいました。すぐくうれしかったのを覚えています。やはり、温

かい言葉かけをし、思いやりの心をもって接することが大切です。

二つは、お互いに本気でかわり合うことです。友達に気を遣うのではなく、また、気を遣われることもなく、思いつきりぶつかり合うのも大切なことだと思います。九月に山隈で奉納相撲がありました。仲の良い友達と対戦することが多い大会でしたが、友達だからといって手をぬくことは、相手に失礼です。一步土俵にあげれば、お互い真剣勝負です。僕は本気で戦いました。相手は同じ柔道を習っている友達。普段は仲が良いけど、お互いに本気でぶつかり合いました。結果は、僕が勝ちました。試合の後その友達から

「強かったね。次もがんばってね。」と言われました。本気でお互いに戦ったからこそ、友情がさらに深まったと思います。

三つは、協力です。みんなで協力することで、より友情は深くなるからです。今学級では、長縄を頑張っています。学級で目標回数を決め、練習に取り組んでいます。速い縄に入るタイミングをつかむのが苦手な友達、連続で跳ぶのが苦手な友達がいます。

でも、みんなで「ドンマイ。」や「がんばれ。」と声掛けをしています。上手に跳べた時には「ナイアス。」と声掛けをしています。みんなで一つの目標に向って頑張ることで、より一層友達との友情は深くなっています。

また、運動会の応援団では、みんなで振り付けや応援歌を考えたり、休み時間に集まって練

習したりすることで、団結することができ、より一層友情が深まりました。

このように、友情を大切にするために、思いやり・本気でかわる・協力の三つが大切だと僕は思います。

あと五か月で小学校を卒業し中学生になります。いろいろな小学校から中学校にたくさんの方が入学します。僕は、全ての人と友情をはぐくんできたいと思います。そのために、これからも、思いやり・本気でかわる・協力の三つのことを考え行動していきたいと思っています。

みなさんは友達との関係はどうですか。友情は続いていますか。

みなさんも友情について考え、ぜひこれから友情を深めていきましょう。

そして僕との友情も深めていきましょう。



家族にありがとう

大堰小学校
6年 小坪 莉旺

みなさんは、家族が毎日どんな仕事をしているか知っていますか。家族に感謝の言葉を伝えていますか。ぼく達は毎日、家族に支えられたり助けられたりしながら生活をしています。家族は、ぼく達の一番近くにいて頼れる存在です。ぼくは、そんな家族に感謝の言葉を伝えることはとても大切なことだと、最近思うように

なりました。

多くの家族は、みんな農業をしています。世界一の玉レタスを作っています。用事があるときでも、野菜やお米を待っている人達のために、夜おそくまで働いています。しかし、家族のそんな姿を見ても、ぼくは自分から進んで手伝いたいとは思えません。なぜなら、朝から晩までほとんど休みなく働いている姿や、難しそうな作業を見ていて、少しいやだなという気持ちがあったからです。

そんなぼくの気持ちが変わしたのは、夏休みの宿題でお風呂掃除をしたことがきっかけでした。それまでのぼくは、正直言ってあまりお手伝いをしていませんでした。しかし、お風呂掃除は自分の仕事だと決めたら、毎日やらなければいけません。毎日やっているうちに、だんだんと、大変だとか面倒くさいとか、やりたくないという気持ちが生まれてきました。でも、よく考えてみると、おばあちゃんは、何も言わずに、毎日欠かさずこの仕事をやってしてくれます。ぼくは、おばあちゃんの姿を見てみると、家族の仕事をいやだなと思っていたことが恥ずかしくなりました。

あらためて家族の仕事を考えてみると、家族は農業以外にもたくさん仕事をしてくれている、ということに気づきます。まず、おばあちゃん、家族のご飯作りや洗濯、掃除など、家事のほとんどをしてくれています。ぼくは、家族のために心をこめて家事をしているおばあちゃんに、感謝の気持ちをもたないといけない

と思うようになりました。だから、お風呂掃除や食後のお茶入れなど、できることは進んでするようにしました。また、ご飯は、おいしいと感想を言って、残さず食べるようにしました。

次に、お父さんは、農業のほかにも、消防団に入って地域を守る活動をしています。以前は、お父さんのスケジュールが一月すべて埋まったことがあります。だけど、お父さんは、ぼく達のために、飲み会に参加していても、早く帰ってきてくれます。お父さんの仕事をぼくが手伝えることはなかなか難しいですが、晩ご飯の時にビールを注いだり、氷をコップに入れたり、ぼくにもできることをして、感謝の心を伝えていきます。

おじいちゃんは、農業にたずさわる方を中心に、いろいろな人との仲を深めたり、大きなトラックを運転して野菜を運んだりしています。ぼくはおじいちゃんのおかげでたくさんの人に名前を覚えてもらいました。遊びに誘われることもあります。朝の登校中に車から声をかけてくれる方もいます。おじいちゃんは、ぼくの知らないところで、いろいろな人たちと関わりながら仕事をしているんだなと思うことが多くなりました。ぼくは、ときどき、おじいちゃんの肩をもみながら、「ありがとう」と心の中で言っています。

ぼくは、今、家族に感謝の気持ちをもっと伝えたいと思います。その方法は、言葉にして伝えるということです。今までは、行動することによって感謝を伝えていましたが、自分から言葉に表

すことは、あまりできませんでした。恥ずかしいからです。また、言わなくてもわかってきている、という気持ちもあったからです。人間は自分一人の力だけで物事を進めることはできません。ぼく達が安心して生活することができるのは、支えてくれる家族がいるからです。これからぼくは、感謝を言葉で伝えます。皆さんも言葉に出して感謝を伝えませんか。「いつも支えてくれてありがとう。これからもよろしくね。」と。



あいさつと礼儀

本郷小学校
6年 安達 桜大

ぼくたち本郷小学校では、あいさつ運動をしています。ぼくたちのあいさつ運動は、六年生全員で行っています。これは、先輩たちが残し、伝統になっているあいさつ運動です。

それでは、なぜあいさつが必要なのでしょう。あいさつと礼儀について考えてみました。あいさつは、人と人とのコミュニケーションの始まりになります。また、「大きな声で・目を見て・自分から」を合言葉にあいさつをすると、元気が出て、相手も自分も気持ちよくなります。しかし、現実には、恥ずかしがったり、声が小さかったりとうまくあいさつができていません。そこで、まず、学年会であいさつ運動をする

目的と方法について話し合いました。そこで、全校のみんながあいさつをして、笑顔で明るい学校にすることを目的に頑張ることになりました。そして、あいさつをするとき、相手とハイタッチをすることと、校門あいさつとクラス訪問あいさつをすることが決まりました。ぼくは大きく明るい声であいさつすることを意識しています。しかし、下級生の中には、ぼくと同じように返してくれないこともあります。そのときは、下級生の目を見てしゃがみこんでハイタッチすることを心がけています。ニコッと笑顔であいさつをする下級生を見ると、ぼくはうれしくなり、あいさつっていいなと感じます。今年も、みんなのあいさつが上手になっていてと思います。だから、この調子であいさつを広めていきたいと思っています。

次に、礼儀のことです。ぼくは、礼儀とは「相手を敬い、お辞儀をそえて心からの言葉を表すこと」と思っています。みなさんは、「お願いします。」

「ありがとうございます。」と、心をこめて言ったことがあるでしょう。

では、礼儀を示すとどんな良いことがあるのでしょうか。例えば、「ありがとうございます。」と言ったとします。相手は、良かったと感じるでしょう。しかし、心をこめて感謝を伝えないと、「次はやめようかな」という気持ちになっ

てしまいます。つまり、相手のために行動する気持ちにならなくなるとともに、人と人とのコミュニケーションができなくなると思っています。ぼく

は、サッカーをしています。友達のお母さんに送り迎えをしてもらったときは、必ず

「ありがとうございます。」とお辞儀をそえて感謝を伝えています。またサッカーの試合をする前に、

「お願いします。」

と相手と正々堂々と戦いましょうという気持ちをこめて言い、終わったときは、

「ありがとうございます。」

と相手をたたえ、感謝の気持ちを大きな声で伝えています。ぼくは、この言葉を言うとき心も体もピシッとなるし、いい言葉だなと思っています。

ぼくたちの生活に欠かせないあいさつと礼儀をきちんとすることで、お互いの気持ちが良くなったり、気持ちを伝えたりすることができ

ます。これらが、学校、地域へと広まれば明るい社会になるのではないのでしょうか。多くの本郷小学校であいさつや礼儀が広まれば、みんなが元気になり、友達とのよりよい関係がつけられると思います。そして、みんなが「学校へ行きたい」と思える本郷小学校になると考えています。だから、ぼくがあいさつと礼儀を示せる人になり、地域や学校で広めていきます。



みんなが仲よく するために

大冨小学校
6年 江崎 愛来

最近、テレビのニュースで、子どもの自殺を目にすることがあります。そして、その自殺の原因がいじめであることもめずらしくありません。なぜ、このような悲しい事件が起きてしまうのでしょうか。

これは、私の前の学校での体験談です。

三年生の頃、私は友達との関係がうまくいかず、無視されたり足をふまれたりすることがありました。このころは、人の目がこわくて、学校に行くのがいやでいやでたまりませんでした。なぜこうなったのか、何がいけなかったのか、考えても答えが出ず、とても苦しかったことを覚えています。二度とこんな思いはしたくないと、今でも思っています。

それから数か月がたち、私は四人の友達と仲よくしていました。しかし、ある日、その中の一人がそこにいないAさんの悪口をいい始めました。すると、周りの友達も一緒になつて悪口を言い始めてしまったのです。私の心の中には、数か月前の記憶がよみがえりました。私にはいじめられるつらさがわかる。だからこそ、その子を救ってあげたい。しかし、「その子をかばうと、私まで悪口を言われてしまうかもしれ

ない「そんな不安が頭をよぎったのです。こうして、私は、Aさんのことを悪く思っていないかったのに、一緒になつて悪口を言ってしまった。次の日から、Aさんは、仲がよかつたはずの友達から無視されるようになってしまいました。Aさんは一人ぼっちで悲しそうでした。「やめておけばよかった」と、すごく後悔しました。しかし、そう思うものの、次の行動にはなかなか移せませんでした。この時の私の心をハート図で表してみます。赤い部分が「Aさんを笑顔にしたい」という気持ちで、青い部分が「自分が標的になるのはいやだ」という気持ちです。この二つの気持ちが、増えたり減ったりして、私の心の中で闘っていました。そのうちに、だんだんAさんの姿が以前の自分の姿になつて見えてきました。Aさんはあのときの自分だ、と思いました。私は、Aさんのつらさが自分の感じたつらさと同じものだと思つたとき、私の心の中は、このように変化しました。そして、勇気をふりしぼつて話しかけました。

「ねえねえ、いっしょに遊ぼうよ。」

どんな返事がくるのか心配しました。しかしAさんは、にっこり笑つて、

「うん。」

と、こたえてくれました。その瞬間、話しかけてよかつたと、心から思いました。私がAさんと遊び始めると、他の友達も、

「いっしょに遊んでいい。」

と、言つてきてくれました。それから、徐々にものとの関係にもどつていきました。今ふり返つて

も、あの時、Aさんに話しかけることができよかつたと思います。正しい行動はまわりにも広がっていくことを実感しました。

この出来事をきっかけに、私は、友達が傷つくような行動を止めることができるようになりました。今も、人間関係でもめた時は、「友達を笑顔にしたい」という赤い心と、「まきこまれたくない」という青い心が入り交じつてしましますが、このように、相手を思う赤い心を大きくするように心がけています。

みなさんのまわりには悲しんでいる友達はいませんか。一人で苦しんでいる友達はいませんか。自分一人で自分が正しいと思う行動をすることは、確かに難しいことです。しかし、みなさんのたった一言で、友達を救うことができます。助けることができるのです。一人一人がその勇気をもてば、きつとみんなが仲よくすることができそうです。いじめのない、みんなが仲よくできる世界をみんなの勇気でつくつていきましょう。



小さなことから 世界を変える

菊池小学校
6年 釜谷 葵

「おはよう」「ありがとう」「何気ない言葉だけれど、私はこれらの言葉に社会を変える力があると信じています。」

私の祖父は、交通安全協会に入っています。時々、家の近くの交差点に立つて、私たちが安全に登下校できるよう見守ってくれています。そして、一人一人に

「おはようございます。」

と挨拶をしています。祖父は、以前私にこんなことを話していました。

「子どもたちとの挨拶がコミュニケーションの第一歩だと思つて必ず挨拶をするようにしているんだよ。中には黙つて通り過ぎたり、こちらを見ずにとでも小さな声で挨拶をする子もいるよ。そういうときは、残念で悲しい気持ちになるよ。だけど、元気な声で挨拶をしてくれた時は、おじいちゃんも元気になるしとてもうれしい気持ちになるよ。」

祖父が話していたことは、私も経験したことがあるのでよく分かります。昨年、学校の取り組みで「挨拶運動」があり、私は学校の出入り口の前に立つて登校する人たちに挨拶をしました。

「おはよう。」

と言うと、とても大きな声で挨拶をしてくれる人がたくさんいて、その時は笑顔になれました。しかし、何も言わずに通る過ぎる人もいました。その時、私は祖父のように残念な気持ちになりました。

私たちの周りには、そのような活動を毎日してくださっている方々がいらつしゃいます。それは「見守り隊」の皆さんです。私の通学路には、三か所に見守り隊の方が立つてくださつて

います。見守り隊の方は、いつも大きな声で、「おはようございます。」

と挨拶をして、私たちの登下校を温かく見守ってくださっています。私が会う見守り隊の方の中には、私が近くを通る時に手を振りながら大きな声で、

「おはよう。行ってらっしゃい。」

と声をかけてくださる方もいます。だから、私も手をふって笑顔で挨拶をします。しかも名前まで覚えてくれていて、いつもの登校時間に来ていない人がいたら、

「〇〇ちゃんは。」

と声をかけてくださいます。

私たちは毎日見守り隊の方に会うのが当たり前になってきているけれど、見守り隊の方の活動はとても大変なことだと思えます。天気の良い日も悪い日も毎朝立って声をかけてくださいます。声をかけてもらえると、私も自然と笑顔で挨拶をしています。見守り隊の存在は私にとってとても大きいです。

人を笑顔にするのは朝の挨拶だけではありません。他にも声に出すことで笑顔になれる言葉はあると思えます。私は、いつも「ありがとう」という言葉を大事にしています。それは、だれかに何かをしてもらったとき、どんな小さなことでも、

「ありがとう。」

と言います。相手が家族でも友達でも先生でも変わらず言うようにしています。「ありがとう」と言われるとうれしい気持ちになって笑顔に

なります。小さいことのように思えるけれど、「ありがとう」の一言を言うだけでお互いが優しくして明るい気持ちになります。

「おはようございます」や「ありがとう」の一言を言うことは、小さいことのようにだけど人の気持ちを動かす大きな力があると思えます。私にとっての社会は家族との暮らしや学校での生活です。その中で、だれでも実行することができることは、それらの言葉を声に出して言うことだと思えます。声に出すことで人が笑顔になり、社会が明るくなると思えます。

私の祖父や見守り隊の方がそうしてくれているように、私も相手が笑顔になる行動をして社会を明るくしていきたいと思えます。

「おはようございます。」

「ありがとう。」

みなさんも、いつしよに始めてみませんか。



私の背中をおしてくれたもの

大堰小学校
6年 平田 綾子

みなさん、この写真を見てください。大堰ソールンをしている私です。みなさんにはどう見えますか。自信をもって堂々としているように見えますか。私は今、少しずつ自分に自信がもてるようになってきました。それはこんな出来事があったからです。

一年生の時に、私は、自分の声をからかわれたことがあります。その時は、とても悲しくて、怖くて、もし他の人にも言われたらどうしようかと不安になりました。だから、もう言われないように、絶対に他の人と話さないと決めました。その日から私は、学校ではクラスの人以外の人と話せなくなりました。

二年生の時、私は、担任の先生になぜ自分が話せないのかを手紙で伝えました。話せるようになりたいという気持ちがあつたし、友達に迷惑をかけているのではという不安もあつたからです。自分の気持ちを伝えたと、気持ちがすっきりしたことを覚えています。

四年生になるまでみんなの前で発表すると泣いていた私ですが、もう下の学年に泣いている姿を見せたくないと思うようになりました。友達に助けってもらい、一緒に話してもらったことで少しずつ発表にも慣れていきました。

学習発表会の役割決めの時、最初は、セリフの少ない役を選んでいましたが、先生が、「リポーター役なら二人でやってもいいよ。」

と言ってくくださったので、その役を選びました。そして、くり返し練習。大きい声を出して、聞き取りやすいようにしようと努力しました。友達も聞いてくれました。私は、何度も練習するうちに、いつの間にか一人でできるのではないかと思うようになりました。そして、一緒にリポーター役をしてほしいと誰かに頼むことも忘れ、本番を迎えたのです。

本番当日、たくさんの人を目の前にして、ど

きどきする気持ちが高まり、怖くなりました。私の声で聞こえるのだろうかと不安でいっぱいでした。でも一方では、ここまで練習したのだから大丈夫という思いもありました。

遂に出番がきました。私は勇気を出して口を開きました。すると、セリフが口からずりりと出てきたのです。私は、とても緊張していたけれど、声がちゃんと出てとても嬉しかったことを、今もはつきりと覚えています。そしてこの学習発表会をきっかけに、これからは話すことができそうな気がしてきました。

そして、五年生。私の学校では、帰る前にちよつとしたスピーチの時間があります。順番が回ってきた日、私は、朝から言うことを考えていました。心配した友達が、「一緒に言おうか。」

と言ってくれましたが、断りました。今日こそは一人で言う決めていたからです。そしてその日、私は、自分の口で、一人で話すことができました。言い終わったとき先生が、

「すごい！よく言えたね。」と抱きついてくれました。私はとても嬉しいのと安心したのとで、心の中で何度も、「ありがとう。」とつぶやいていました。

人前で堂々と話せるようになった私。私の背中をおしてくれたものは、私自身の勇気といういろいろな人々の支えです。この体験から私は、自分一人でできなかったことでも、みんなの助けを借りると、できることは増えていくということに気づきました。また、みんなに支えても

らっている間に、自分にどんどん勇気と自信が沸いてくることを知りました。

初めから自分に自信がある人なんていません。また、努力してもできないこともあるでしょう。でも、苦手なことでもやってみて、成功や失敗を仲間が支えてくれる。そんな経験が少しずつ少しずつ積み重なって、自分の中の自信が変わっていくのだと思いました。私はこれから、いろいろなことにもぶつかって苦しい思いをすることがあっても、勇気を出して進んでいきます。周りの人は、きっと私を支えてくれるはずだからと信じて。



笑顔あふれる 明るい社会へ

本郷小学校
6年 中尾 風海

みなさんは、「明るい社会」と聞いて、どんなことを考えますか。私は、みんなが尊重し合う、笑顔あふれる社会だと思います。ところが今の世の中はどうでしょう。笑顔あふれる社会とは言えないと思います。私たちは自分と考え方が違ったり、見た目が違ったりすると「変だな」「おかしいな」と思ってしまうんです。私も、その人のことを十分に知っているわけではないのに、気付かないうちに見た目で判断し、悪い人だと決めつけてしまい、お互いに気まずい雰囲気になったことがあります。なぜ人は、少して

も自分と違うと、のけ者にしたり差別をしたりするのでしよう。

人は違って当たり前で、差別したりいじめたりすることは、絶対にしてはいけないことなのです。

今から約七十年前のドイツでは、アドルフ・ヒトラーの率いるナチ党が、ユダヤ人をはじめ、黒人、ロマ、心身障がい者などは、一般社会で生きていく資格はないと考え、迫害していたことを本で読みました。特に、ユダヤ人に対する差別はひどく、強制収容所に収容するなど、今では考えられないことを行っていました。本には、ユダヤ人は公用施設への出入りを禁じられたり、オランダに住む六歳以上のユダヤ人は、「ダビデの星」と呼ばれる黄色の星印を付けて区別されたりしたと書かれていました。そして、六百万人近いユダヤ人が、自分たちと違う民族だというだけで、強制収容所などで殺されたことも本を読んで知りました。私は、これらのことに対して「おかしい。」という声をあげる人が少なかったことにとっても悲しくなりました。それと同時に何かあっても差別はいけなくと強く思いました。このドイツでの出来事は、今から七十年以上前のことです。

私は、日本は差別のない社会だと思っていました。しかし、そうではありませんでした。例に挙げると、最近では、大学医学部入試の時に女性だからという理由で点数に差をつけるといったことが大きなニュースになっています。女性は結婚や出産で休みを取ることがあり、医

師が不足することを回避するためだったという事です。でも、そんなことを理由にしてはいけないと思います。昔は、女性は男性より下の身分とされていたことは知っていました。一九八五年に男女雇用機会均等法ができて、平等になったと思っていたのに、こんなことが現在もあると知り、信じられない気持ちになりました。法制化してもなぜなくなるのかを自分なりに考えたとき、やっぱり「おかしいことだ。」と声に出して訴える人が少ないからではないかと思いました。

差別やいじめをなくすために必要なことは大きく二つあると思います。一つは、思いやりの心を大切にする事です。自分も相手も気持ちがよくなるし、人を大切だと思ふ心が生まれると思ふからです。私にはまだまだ足りない心です。道徳の時間に「思いやりが大切だ」と何度も学習しますが、なかなか行動に移せません。それどころか、相手のことを考えずに傷つくことを言つて悲しませることがよくあります。「おかしい」ことははつきり「おかしい」と声をあげるとともに、相手がどう思ふかを考えて行動し、困っている人へ積極的に声をかけることで、思いやりの心を強くしていきたいです。二つ目は、自分を大切にすることです。なぜなら、自分を大切にできないのなら、他人も大切にできないと思うからです。今の私は自分に自信がなく、「どうせ無理。」と言つて途中で投げ出してしまふことがあります。社会を明るくしていくためにも、目標をもつて、失敗を恐れずに挑

戦していくことが大切です。相手が気持ちよくなる言葉をかけ、自分も相手も笑顔にしていきたいです。自分を大切に、そして周りの人を気づかうことのできる人になるために努力していこうと思ひます。これが笑顔あふれる明るい社会への第一歩だと考えます。



人をキレイにするために

大刀洗中学校
1年 山路 あげは

私の将来の夢は、メイクアップアーティストになることです。

そのきっかけとなったのは、ひいおばあちゃんが私に言つてくれた言葉でした。

私は、小さいころひいおばあちゃんに

「おばあちゃんは何でお化粧せん」と。と聞いたことがあります。するとおばあちゃん、

「昔は、少しだけしよつたとよ。でもね、戦争があつてるときはそんなお化粧するどころか食べる物すらなかつたけん、せんかつたとよ。仕事をはじめて、周りの影響でしたこともあつたけど、やっぱり昔のことを考えると戦争で亡くなった人にもうしわけなくなつてね。」

と、小さい私に熱心に話をしてくれました。

私は、ひいおばあちゃんのドレッサーを見るのが好きでした。今思えば、そんな思い出がド

レッサーの中にたくさんつまっていたんだなと思ひました。

今でも、ひいおばあちゃんは言つてくれることがあります。

「もし、これからあんたが社会に出るようになって化粧をはじめることがあつたら、なんでもかんでもぬることが化粧やないんよ。人がキレイになるには、だれしも同じ化粧なわけやないんよ。」

これを聞いて、このことは、化粧のことだけではなく、個性があつていいということをおばあちゃんなりに伝えてくれたんではないかなと思ひました。

この言葉を聞き続けていたこともあつて、一人一人の個性を引き出すことができるメイクアップアーティストになりたいと思ひました。

もう一つの理由は、ひいおばあちゃんに

「おばあちゃんが死んで葬式の時には、あんたが私の最後の化粧をしてほしいんよ。だからよろしくね。」

と、約束をしたからです。

いつも物静かなひいおばあちゃんからこのようなお願いをされるとは思つてもいませんでした。

この二つのひいおばあちゃんの言葉が、私の将来の夢を考えるきっかけになりました。

私は、肌が弱い方だったため、化粧はなるべくひかえなさいといわれていました。だから、大人になって、モデルの方、タレントの方、俳優

さんたちがテレビや雑誌などに出る時のメイクを手がけ、魅力的な姿になるための手助けをしたいなと思います。

まずは、中学を卒業したら、福岡常葉高校のエステティックコースで専門的な勉強をし、その後メイクの専門学校に行くことが今の私の目標です。

そして、たくさんの人をキレイにできるメイクアップアーティストになれたらいいなと思っています。

ひいおばあちゃんから言われた言葉を忘れないでいきたいです。

夢を叶えるために、学んでいくなかで大変なことや、迷惑をかけることもあるかもしれないけれど、その分魔法のように人を変身させるくらいメイクアップアーティストになって、恩返しをしていき、ひいおばあちゃんとの約束が果たせるようにしていきたいです。



大変な事でも 楽しむ

大刀洗中学校
2年 床島 健斗

この世の中に自分の好きなことを仕事にして生活している人はどのくらいいるのだろうかとか考えてみたことはありませんか。僕は、好きなことを仕事にして生活する事は難しいと思っていました。でも、夏休みの職場体験学習

で考えが変わりました。

僕は、中学校の近くの個人経営の建設業者に二日間職場体験に行きました。職場体験の一日目、様々な建設会社を回って、社長さんの話を聞いたり、ガラスをオイルカッターを使って切ったりしました。床の張替え工事の現場を見せていただき、少し手伝いをさせてもらいました。その後、昼食の時間にインタビューをさせていただく事になりました。インタビューの内容は、仕事の経験年数や仕事を始めるきっかけについてでした。そして、「その仕事の大変なことや、つらい事はなんですか。」という質問で、予想外の答えが返ってきました。僕の予想では、「外の作業が多いから、夏の暑い日や冬の寒い日はきつい。」

というような返事が返ってくると思っていました。しかし、返ってきた答えは、

「ない。この仕事を好きでしているから、つらいことはない。」

と、いうものでした。この答えは、僕を驚かせるものでした。

つらいことはないといっても、やはり、夏は暑く冬は寒く、とても忙しい時もあったと思います。それでも、つらい、苦しいと思わないほど仕事が好きなんだなあ、と思いました。そのとき、「好きこそもの上手なれ」を実践している人だと感じました。

その後、

「仕事を続けてこられた経験を通して、僕たち中学生に伝えたいことはありますか。」

と尋ねました。すると、「仕事をする上で大切なことは、人づきあいと仕事を好きになる事。」と、教えてもらいました。

僕は、これらの言葉について、よく考えてみました。まず、仕事をする上で大切なことの一つ目の、人づきあいについてです。どれほど優秀で仕事ができる人でも、一人でこなせる仕事の量には限度があります。だから、たくさん仲間たちと助け合って仕事ができるように、人づきあいが大切なのだと思います。二つ目の仕事を好きになるという事は、仕事を長く続ける上でとても大切だと思います。どんなに嫌なことでも、一日ならたえられます。でも、毎日となるととてもたえられません。だから、仕事を好きになることが大切なのだと思います。仕事を好きになれば、やりがいを感じ、仕事が楽しめるのではないかと思います。

僕は、この経験から、様々な仕事をとりあえず好きになって、楽しむことが大切だと思います。どんなに嫌であっても、これは嫌だ、あれも嫌だと言っていた方が疲れると思います。でも、好きになって楽しめば、上達も早いですし、心も楽だと思えます。だから僕は今、目の前にある事、つまり、勉強や部活を一所懸命やって、好きになって楽しみたいです。そして将来は、職場体験で出会った社長さん達のように、好きな事をやりがいを持って仕事ができる人を目指します。



あたり前に感謝 すること

大冢洗中学校
3年 河村 花菜子

私たちにとつてのあたり前の生活とは、本当にあたり前のことなのでしようか。私は最近とても感じることはありません。それは、もつと今の自分の生活に感謝をしなければいけないということなのです。

夏休みの家庭科の課題で、幼児に関するレポートが出されました。私は、「世界の働く子どもたち」について書くことにしました。調べていくうちに、ある一人の少女の記事に目が留まりました。

それは、綿花畑で五歳から働き、一度も学校へ行つたことがない少女のお話でした。綿花畑で使われる農薬を吸うことによつて、少女を頭痛と腹痛が襲います。そしてこの少女は農薬の害を受け、十六歳という若さで亡くなりました。しかも、働いているときの賃金は、大人よりもとても安かったそうです。この過酷な状況の中で、きつとこの少女にも将来の夢や希望があつたことでしょう。生まれた国が違うだけで、本来全ての人々に平等に与えられた人生が、こんなにも早く終わつてしまったことに、私は本当にかわいそうだと思います。

そして、ふと我に返りました。そのときの私はエアコンの効いた部屋で、音楽を聴きながら

そのレポートを書くようとしていました。私はその自分の状態をとて反省しました。そんなのん気に読むような記事ではなかったことに気づいたからです。

それから、私は今までの色々なことを振り返つてみました。毎日のように登校して授業を受けて、部活をして、帰宅したら食事をとり、テレビを見るなど、いつものあたり前だと思つていた日常の中でも、私はすぐ勉強がめんどくさいと言つたり、自転車で登校するのに日焼けしたくないと言つたり、親に反抗したりなど、色々な不満やわがままを言つていました。だけど、私たちがこうして学校で、友達と笑い合つたり授業を受けたりしている間、同じ地球のどこかでは、厳しい環境の中、汗だくになつて必死に働いている子どもたちがたくさんいます。中には命を落とす子どももいるのです。また、私たちが不満やわがままを言つたり、反抗したりしている時、同じ地球のどこかでは、本当は学校に行きたかつたり、お腹いっぱいご飯が食べたかつたりなど、私たちと同じようにたくさんわがままを言いたいはずの子どもたちが、何一つ文句を言わず、必死に働いています。

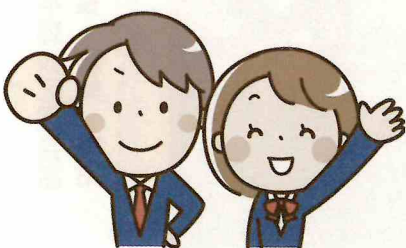
そんなことを考えていると、今までこんなにも色んな人に支えられて不便のない充実した生活を送ることができているにも関わらず、ちっぽけなことでも不満を言つたり、わがままを言つたりしている自分が本当に恥ずかしくなりました。そして今、自分があたり前になっていること、できていることは決してあたり前なん

かではなく、全てのことは感謝すべきことなんだと気づきました。

私はこの夏休み、世界の子どもたちに目を向けることができよかつたと思います。なぜなら、それがなかつたら、世界の子どもたちの苦しみを知らずに、今の自分の生活のありがたさを感じることはできなかつたからです。

今年私は受験生だし、勉強が嫌になることもあります。何もしたくない日もあります。だけど、そのようなことは毎日が充実しているからこそ起こる感情で、これからは生活の一つ一つに感謝して、一日一日を大切に生きていきたいです。

いつか世界中の子どもたち全員が私たちのように充実した楽しい生活を送れるようになるためにも、もつと世界に目を向け、世界の深刻な状況について正しく知ることから始めることが、小さなことかもしれないけれど、大切なことだと思います。また、お互いに助け合えることはないので、自分にできることはないので、かを考えながら生活をしていきたいと思ひます。



ウォーキング大会

大堰校区民会議
秋吉 朋恵

10月27日(土)、秋晴れの清々しい天気の下、第18回大堰校区ふれあいウォーキング大会を開催しました。今年度は、趣向を変えた「謎解きウォーキング」を行いました。大堰校区内の2か所の公園、社寺を巡るコースを4通りつくり、4チームに分かれて謎解きをしながら校区内を進んでいくものです。

当日の参加者は、大人と子ども合わせて約80人。大堰校区を回りながら各ポイントで謎解きを行い、最後の宝箱を開けるための4つの数字を集めていきます。大人でもすぐには解けない謎も、同じ地域に住む大人と子どもで協力して解いていくことで、一体感が生まれました。中学生ボランティアの皆さんも多数参加していただき、とても盛り上がりました。

宝箱の中身は、お菓子とお楽しみ抽選券。大堰交流センター憩いの園に戻り、お楽しみ抽選会がありました。今回は、例年に増して景品を用意し、たくさんの人に当たるようにしました。番号が呼ばれるたびに、歓声とため息が飛び交う会になりました。

最後になりますが、各区分、第3分団の皆さん、小学校の先生方、地域の皆さん、中学生ボランティアの皆さんのご協力が無事終了することができました。今後このウォーキング大会が、地域をつなぎ、ふれあいの輪を広げる行事となることを願っています。



餅つき大会

本郷校区民会議
会長 岩崎 耕市

平成三年、本郷小創立百周年を迎えるにあたり当時の父親委員・PTA役員を中心に各家庭で使っていない餅つき用臼を譲っていただき、小学校での餅つき大会が始まりました。今年の餅つき大会は、各学年一臼・育成会一臼の合計七臼の餅をつきました。

当日は天気にも恵まれ、町会議員様を初め区長様・民生委員児童委員の方・本郷校区育成会の方々のご協力のもと無事に終了することができました。

PTA役員の皆様には準備等で何回も学校に足を運ばれ、担当の先生方と、前日に準備しておくこと、もち米の蒸し方等の打ち合わせをしていただきました。当日早朝よりのつき方の練習では、「初めはつかずに体重をかけてぐいぐいと均一に潰す」「つく時は力を入れず振り上げた重さを利用して落とすようにつく」等新役員の方は、先輩の役員からつき方を教えてもらっていました。「もちつきはしたことがないので解りません」と言っ心配しておられた新役員の皆様達が子どもたちに丁寧に教えているのを見て安心いたしました。

私事ですが自律神経失調症を患い、寒くなると体が冷えて冷えて仕方ありません。一方、気温が上がると汗が止まらない状態で皆様にはご迷惑をお掛けしました。



校区夏祭り

大刀洗校区民会議

田原 英明

7月28日(土)校区夏祭りが、今年は芝生化された小学校運動場で実施されました。台風12号が接近していたのでその影響が心配されましたが、幸いなことに北風が心地よく、さわやかな祭り日和となりました。法被姿の小学生の元気のいい名演技(よきこい?)で幕を開け、いろいろなパフォーマンスが繰り広げられて次第に熱気に包まれてきました。

そのうちカラオケ大会が始まりました。私は30年ほど昔のことに思いを馳せました。私が大坂からたまたま帰省して盆踊り大会を見に行った時、既に亡くなっていますが、当時(おそらく)50代の母が小学校運動場の真ん中に作られた櫓の舞台上がって、神野美伽の「男船」を歌っていたことを思い出したのです。私はそのDNAをきっちり受け継いだようです。

小学生たちが芝生の上を走り回っています。自分たちのホームグラウンドで夏祭りが行われていることをどう感じているのだろうか。

そんなことを感じているうちに祭りが終わりになろうとしています。翌朝、芝生に危ないもの(竹串等)が落ちていないか人海戦術で見回りしました。芝生の上ではありませんでしたが、用具置き場の付近にラムネ瓶のかけらが見つかったということがありました。

来年改善し、よりよいものにしていかなくてはなりません。

今年の夏祭りは何十年ぶりの小学校運動場で、まして初めての芝生の上で行われました。小学校関係の皆様のご理解とご協力、地域の皆様のご支援、特に育成会のみなさんのご協力に対し、心よりお礼を申し上げます。素敵な夏祭りをありがとうございました。



歩け歩け大会

菊池校区民会議

鈴木 雅也



菊池校区健全育成校区民会議の事業として、今年度は昨年に引き続き「歩け歩け大会」と「もぐらうち」が計画されています。

11月3日には「歩け歩け大会」が実施されました。当日は大変気持ちの良い快晴で、絶好のウォーキング日和となりました。菊池小学校の児童と地域の方々、約一二〇人が参加し、菊池小学校から筑前町多目的運動公園を目指して歩きました。約4キロの道のりを、のどかな景色を眺めながら、地域毎に4つのグループに分かれて順番に歩いていきました。現地には1時間程度でたどり着きましたが、秋らしくない日差しの強さもあり、程良い汗をかきながらのウォーキ

ングとなりました。

現地にて昼食・休憩をした後、レクリエーションではクイズ大会が催されました。2択クイズが出され、最後まで正解した10人には賞品が出るという事で、子どもたちは始まる前から大興奮です。大刀洗にまつわる簡単な問題から始まり、徐々に広い地域・難しい問題へと進んでいきました。その間、たった一人だけで正解を選んで勝ち抜ける人もいる一方で、グループで行動を共にしてみんなで不正解になってしまうといった事もありました。

帰りは来た時と同じ道に戻っていきました。昨年は天候悪化などのトラブルに見舞われましたが、今年度は最後まで気持ち良く過ごすことができました。



食べていきいき!

食改善の健康講座

吉田 俊道

平成30年8月26日（日）、大刀洗町食育推進協議会との共催で食育講演会を開催しました。当日、会場のぬくもりの館会議室には多くの参加者が集まり、熱心にお話を聴いていました。

元気野菜づくりと元気人間づくり

吉田先生が取り組まれている「元気野菜づくり」は、野菜くずなどの生ゴミを土に混ぜて土の中の微生物「菌ちゃん」をいっぱいにして、その力で農薬不要の元気な野菜（菌ちゃん野菜）を作ります。

元気な菌ちゃん野菜を食べて元気な体を作るためには、おなか畑の土づくりが重要です。野菜が土の中の養分を根から吸収するように、人間も腸から栄養分を吸収しますので、腸がよく栄養分を吸収できるようにおなかの環境を整える（＝おなか畑の土づくり）必要があります。

おなか畑の土づくりのために

おなか畑の土づくりのためには、次の3つの要素が大切です。

1. ファイトケミカル

からだの抗酸化力・免疫力をアップする手助けをしてくれる、植物に含まれる化学物質のことです。赤ワインなどに含まれる「ポリフェノール」や、大豆に含まれる「フラボノイド」、緑茶に含まれる「カテキン」など、今注目の物質で、野菜には皮に多く含まれています。

2. ミネラル

カルシウム、マグネシウム、亜鉛、など筋肉や神経の働きを調整する大切な成分で、不足すると様々な欠乏症になります。ミネラルは体の中で作り出すことは出来ないの、食事で摂らなければなりません、現代人は特に不足しているといわれます。このミネラルを効率よく摂るためには、魚を丸ごと食べるとうまく摂れます。

3. 微生物代謝物質

乳酸菌生成物質などのことで、味噌、醤油、酢、納豆などの発酵食品に含まれます。



講師 吉田 俊道

NPO法人大地といのちの会の会理事長。1959年長崎市生まれ。九州大学農学部大学院修士課程終了後、長崎県の農業改良普及員に。96年、県庁を辞め、有機農家として新規参入。99年、佐世保市を拠点に「大地といのちの会」を結成し、九州を拠点に生ごみリサイクル元気野菜作りと元気人間作りの旋風を巻き起こしている。2007年、同会が総務大臣表彰（地域振興部門）を受賞。2009年、食育推進ボランティア表彰（内閣府特命担当大臣表彰）。長崎県環境アドバイザー。主な著書は『いのち輝く元気野菜のひみつ』『生ごみ先生のおいしい食育』『まるごといただきます』など。

生命力食品の代表「味噌汁」

元気な体をつくるために、ファイトケミカル・ミネラル・微生物代謝物質を上手に摂れる良い食品が「味噌汁」です。ミネラルたっぷりの煮干と昆布でダシを取り、ファイトケミカルを含んだ皮ごと野菜をたっぷり入れ、発酵食品の味噌で味付けした味噌汁は、3つの栄養素を一度に効果的に摂れる究極の食品です。また、ダシを取った煮干を丸ごと食べるとより完璧になります。

子どもの健全な成長のために

現代の食生活は、炭水化物、脂質、たんぱく質の3大栄養素は摂れているようですが、それ以外のビタミン・ミネラルなどの栄養素が不足しているものが多いというのが現状です。吉田先生が行ったある小学校では、給食で味噌汁や小魚の粉末を使って、ミネラルなどを摂るようにしたところ、体温が35℃台の児童数と全体の欠席数が減り、更には学業にも好影響が出ている可能性があるとのこと。

野菜たっぷりの味噌汁で、ファイトケミカル・ミネラル・微生物代謝物質を補い、子どもの健やかな成長に役立ててみてはいかがでしょうか。

親子を楽しむ！

まなビィ講座



『家庭の日』と親子対象の講座『まなビィ』とのコラボ企画、親子を楽しむ！まなビィ講座。
平成30年度は4回の講座を開催しました。

第1回 親子で考える防犯対策！

平成30年6月3日(日)開催。

福岡県警小郡警察署生活安全課の職員の方をお招きして、防犯について親子で学びました。まず、子どもを狙った犯罪について映像で学んだ後、知らない大人から声をかけられたときの対応などの実技指導を受けました。



毎月第3日曜日

家庭の日

家庭の日(毎月第3日曜日)には

- 家族みんなが顔をそろえよう
- 子どもの意見や考えを聞くようにしよう
- 家族みんなでスポーツやレクリエーションをしよう
- 家庭を離れている家族と連絡を取りあおう
- 子どものしつけや方法について考えよう

第2回 リアル脱出ゲーム×漢検 不思議な漢字洞窟からの脱出！

平成30年7月21日(土)開催。

まなビィ講座でも人気の脱出ゲーム。今回は、漢字検定とのコラボ企画で漢検の問題を解いて洞窟から脱出するという設定で行われました。小学校の先生方にも参加頂いたことで、子どもたちも大はりきりで、にぎやかな雰囲気で行われました。

タイムトライアル式だったこともあり、どのチームもやる気満々で問題を解いていました。結果は、脱出ゲーム経験者のチームが1位、先生たちが2位、子どもたち



が3位という結果になりました。

脱出ゲーム終了後は、「夜の中央公民館からの脱出？」と題して、夜の公民館をペンライトと経路図を頼りにお札を回収していくゲームを行いました。脱出ゲーム参加者のほとんどがそのまま参加し、夏休みの夜を楽しみました。



第3回

中央公民館でサイエンスショー&科学工作

平成30年9月15日(土)開催。

福岡県青少年科学館のスタッフ2名をお招きして液体窒素を使った「サイエンスショー」や、ビー玉万華鏡・くるくる偏光板万華鏡作りを行いました。液体窒素を使ったショーでは、もうもうと立ち上る蒸気や、ピンポン玉が碎ける音といった派手なパフォーマンスで、子どもたちも親御さんも楽しんでいました。

科学工作のほうでも、自分で作った万華鏡を覗いた子どもたちの生き生きとした表情が印象的でした。



第4回

海底神殿からの脱出

平成30年11月25日(日)開催。

60分ですべてのなぞを解き、水没する海底神殿から脱出するこのゲーム。親子を中心に作られた7チームが脱出に挑みました。超難問の連続で脱出成功チームは3チームでした。それでも、机の上で謎を解くだけでなく、会場のドリームセンター内を地図を片手に移動するなどして、親子で協力して楽しく過ごしました。



編集後記

「育成」という言葉を国語辞典で調べてみる。「そだてりつっぱにすること」と出てくる。私自身育成会の役員として6年ほどかかわってきた。運動会、学習発表会などの行事にも参加させていただいた。1年生だった子どもたちが最上級生になれば下級生たちをひっぱって行くようになる。先生方、保護者の方、地域住民の方がその成長ぶりに目を細める。本当にうれしいばかりだ。子どもたちがたくましく育っていく町内の環境が、今後ずっと続いてほしいと願うばかりである。

(四ヶ所 喜俊)

【編集委員長】

大堰校区 四ヶ所喜俊

【編集委員】

大堰校区 秋吉 朋恵

本郷校区 大場 邦子

本郷校区 坂田 志保

大洗校区 大田 理恵

大洗校区 鈴木 雅也

菊池校区 エドワーズ

菊池校区 ティモシー

事務局 西村 智道

事務局 原 勝美